

学校法人 大阪学院 令和6年度 事業報告書

1. 法人の概要

(1) 基本情報

① 法人の名称

学校法人 大阪学院

② 主たる事務所の住所、電話番号、FAX番号、ホームページアドレス等

〒565-0861 大阪府吹田市高野台4丁目2番1号

TEL : 06-6871-3307 Fax : 06-6871-3364 HP: <https://tamagawa-k.ed.jp>

(2) 設置する学校

玉川学園幼稚園

〒565-0861 大阪府吹田市高野台4丁目2番1号

① 認可定員 850名 (26クラス)

定員内訳 3歳児280名 (8クラス、ただし満3歳児を含む)

4歳児285名 (9クラス)、5歳児285名 (9クラス)

② 利用定員 810名 (25クラス)

定員内訳 3歳児270名 (9クラス、ただし満3歳児を含む)

4歳児270名 (8クラス)、5歳児270名 (8クラス)

③ 教育目標

幼稚園教育とは、幼児を心身ともに総合的に成長させ、自立した人間としての基礎を形成することを目的とする、という認識にたち以下の目標を設定する。

1. 子どもの心を育てる
2. よい仲間社会を育てる

(3) 園児数の状況

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
5歳児	7cl	200	200	200	201	200	200	199	199	199	199	199	199
4歳児	6cl	155	157	157	156	154	157	157	157	157	157	157	157
3歳児	7cl	196	195	195	195	193	196	198	198	198	199	199	199
満3歳児	2cl	0	0	15	15	15	29	29	29	29	30	30	30
合計	22cl	551	552	565	567	562	582	583	583	583	585	585	585

(4) 教職員の状況

教員数						職員数					
本務者					兼務者	本務者			兼務者		
園長	副園長	主幹	教諭	計	教諭	計	職員	計	職員	計	
1	1	1	41	44	6	6	4	4	0	0	

2. 事業の概要

(1) 設置園の教育活動の概要

当法人は、教育基本法、学校教育法および子ども子育て支援法に則り、学校教育と子育て支援を行うことを目的として玉川学園幼稚園を設置し、その運営を行うものである。令和6年度においても、在籍する幼児が心身ともに健全に育つようにその教育方針である「自然を題材にした表現の保育」の充実に努めるとともに教育環境の整備を図った。加えて、幼稚園教育に付随する子育て支援のための各種事業も継続および拡充を行った。

令和6年度の期首の園児数は、年少児がやや増加したため総数では約15名の減少にとどまったが前年度より1クラス少ない20クラス編制となった。年少児が増加したのは、前年度から開始した「満3歳クラス」から進級した園児30名が加算されたことによる。今年度の「満3歳クラス」は、6月入園組（4～5月生まれ児）と9月入園組（4～8月生まれ児）の2クラスに分けて、より早期から幼稚園に入園することができるように改めた。

令和6年度の保育内容や行事運営は、新型コロナ対策から脱却してほぼ予定通りに実施することができた。年度末の無記名保護者アンケート（回収率68%）では、①子どもを本園に通わせて「大変良かった（75%）」、「良かった（23%）」となり、②本園の教育内容については「満足（72%）」、「概ね満足（23%）」と回答いただいております。保護者の満足度は高いと言える。しかしながら、年々暑さが厳しい期間が長くなり、夏場のプールや戸外活動、秋の運動会への取り組みなどに支障をきたすようになってきている。屋内活動を中心にしたり日陰を作ったりして対応しているが、暑さ対策は今後の大きな課題になっている。

職員研修は、園内研究会を毎月1回の頻度で実施するほか、各種団体が主催するセミナーや公開保育に参加して職員の資質向上に努めた。また、厚労省が制定した保育士等キャリアアップ研修を全員が種々の分野について受講したほか、園児の事故を未然に防ぐためのAED研修を消防署の講師を招いて実施した。

子育て支援事業においては、預かり保育を年間通して午前8時～午後7時の範囲で実施した。預かり保育の需要は年々高まっており、今年度ののべ利用者数は32,591名にのぼり、前年度に比べて約4,800名の大幅増となった。ここ数年、総園児数が減少しているにもかかわらず預かり保育利用者は急増しており、社会構造や家庭の意識の変化が伺える。今後もこの傾向は続くものと思われ、預かり保育の体制強化は幼稚園運営に欠かせない課題になっている。

未就園児（2歳児）を対象とした子育て支援事業として「プレスクールつぼみ（幼児教室）」を火曜日から金曜日の週1回コースで実施し、就園前の幼児の集団遊びの指導を行った。また、月1回の頻度で親子体操教室も再開し、本園の体操コーチが親子体操を指導した。前年度から始めた未就園児（2歳児）対象の「園庭開放」を今年度も5月と6月に1回ずつ行い、新たに「玉川サマーフェスティバル」を7月に実施した。また「親子ふれあい保育室」を夏休み中に計6回実施し、本園職員が親子遊びを通して子育て家庭の交流の場を提供した。

子育て支援事業のキンダーカウンセリング事業は概ね月1回の頻度で実施して子育てをする保護者や本園職員の相談に臨床心理士が応じた。発達支援の必要な園児への適切な援助に関する助言も得ている。

(2) 実施した主な行事

実施日	内 容	学年
4月3日	入園式	新入園児
4月9日	進級児始業式	年長・年中
4月11日～15日	個別面談	年長・年中
4月16日～18日	個別面談	年少
4月19日	保育参観日	年少
4月24日	保育参観日	年中
4月25日	保育参観日	年長
5月13日	春の遠足（神戸動物王国）	年長
5月17日	春の遠足（千里南公園）	年少
5月18日	園庭開放	未就園児
5月20日	春の遠足（伊丹スカイパーク）	年中
6月3日	満3歳児6月組入園	満3歳
6月9日	日曜参観日	全学年
6月15日	園庭開放	未就園児
6月17日	プール開き	全学年
6月20日	お楽しみ会（父母の会主催）	全学年
6月21日	保育参観日	満3歳
7月5日	七夕あそび会	全学年
7月6日	玉川サマーフェスティバル	未就園児
7月9日～12日	プール参観日	全学年
7月16日～18日	個別面談	全学年
7月20日	同園会	卒園児
8月26日～30日	夏期保育	全学年
9月1日	満3歳児9月組入園	満3歳
10月13日	運動会	年少～年長
10月16・23・24日	おいもほり	年少～年長
10月21日	親子運動会	満3歳
10月21日	秋の遠足（王子動物園）	年中
10月25日	秋の遠足（万博公園）	年少
10月28日	秋の遠足（海遊館）	年長
10月29日～11月8日	秋の参観日	年少～年長
10月29日	園外保育	満3歳
11月6日	七五三園外保育（伊射奈岐神社）	年長
11月9日	新入園児招待日	出願園児
11月22日	秋の参観日	満3歳
12月7日	製作展	年長
12月10日～13日	うたとリズムの発表会	年中・年少
12月17日	クリスマス会	全学年

1 2月17日～20日	個別面談	全学年
2月3日	節分あそび	全学年
2月14・18日	生活発表会	年中
2月19日～21日	生活発表会	年少
2月26日～28日	生活発表会	年長
3月3日	ひなまつり会	全学年
3月3日・5日	個別面談	希望者
3月4日	保育参観日	満3歳
3月6日	お楽しみ会（父母の会主催）	全学年
3月11日	お別れ会	全学年
3月17日	卒園式	年長
3月19日	修了式	満3歳～年中
毎月最終金曜日(原則)	誕生会	全組

3. 財務の概要

本園は令和2年度より「子ども子育て支援新制度」に移行し、国が定める公定価格に基づく施設型給付金を吹田市から受けて運営をしている。また、幼児教育保育の無償化で保護者からの納付金は大きく減少しているため、移行後の事業活動収入に占める施設型給付金等の公的資金の割合は80%を超えている。本園では、毎月の保育料は0円としており、保護者からいわゆる上乗せ保育料は徴収していない。

今年度の事業活動収支において、経常収支差額は前年度よりも大幅な収入超過になっている。諸物価高騰や人手不足の影響で各業界ともに従業員の賃金上昇を図っているなか、本園でもベースアップ等の処遇改善を行った結果、人件費支出が前年度より大きく増加し、一方で総園児数が前年度に比べて若干名減少しているにも関わらず増収になっているのは、政府の総合経済対策により保育に係る公定価格が上昇し、施設型給付金等の補助金収入が前年度より増加したことによる。教育研究経費ならびに管理経費は前年度から大きな変化はない。この結果、事業活動収支差額比率が前年度から改善している。前年度に「満3歳クラス」を開設したことにより、総園児数の減少は緩やかになったものの園児確保のためには「満3歳クラス」や「預かり保育」など現下の低年齢・長時間保育のニーズに沿った拡充がますます求められる。ただし、これらは多くの人員を必要とするため、人件費支出が収支を圧迫する可能性がある。

今年度の資本的支出としては複数の保育室のエアコンを入れ替えたほか、古くなった電子ピアノを購入した。次年度も引き続き保育室のエアコンの入れ替えを予定しているが、猛暑対策は重要度を増している。施設維持のために修繕として、廊下やトイレの床材の貼り替えや屋上の防水補修、サッシの補修等を行った。本園は、築年数の古い園舎があるため、耐震補強はしているものの将来の建替えも視野に入れて資金を積み立てておく必要がある。

資金収支においては、施設型給付費収入が前年度より増加しており、加えて預かり保育費収入も増えていることから、人件費や資本的支出の増加があっても翌年度繰越支払資金は増加となった。